

令和 5 年 5 月 5 日現在

機関番号：32641

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K00614

研究課題名(和文)近代中国語資料たるUCB蔵フライヤー・コレクションに関する基礎的研究

研究課題名(英文)Basic Research on the UCB John Fryer Collection

研究代表者

千葉 謙悟 (Chiba, Kengo)

中央大学・経済学部・教授

研究者番号：70386564

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：カリフォルニア大学バークレー校東アジア図書館に所蔵されるジョン・フライヤー文庫について、その詳細な蔵書目録を作成した。またその中で中国語学の資料として特に重要なものを紹介し、『京華雑拾』所収の北京語口語版「意拾喩言」の言語について詳細な分析を加えた。最後に、中国語の近代語の成立に一定の役割を果たしたフライヤーの翻訳語標準化運動を検討するため、申請者が発見したSyllabary for the transfer of foreign namesをとりあげ、全体的な紹介とともに成書の背景、成書年代の推定、編者の推定を行い、音訳漢字の基礎方言の推定を試み、さらに音訳用字の特徴について分析を進めた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

海外資料を調査し、その網羅的な目録を編纂・公開することでカリフォルニア大学バークレー校に蔵されるジョン・フライヤー文庫の価値を広く知らせ、また検索に大きな便宜を提供した。そこに蔵される資料を実際に紹介・分析することによりフライヤー文庫が有する資料的価値が理解された。また、資料の分析により19世紀後半の北京語資料として新たな文献を追加することができた。

研究成果の概要(英文)：A detailed catalog of the John Fryer Collection at the East Asian Library, University of California, Berkeley, was compiled. We also introduce some of the most important materials for Chinese linguistics, and provide a detailed analysis of the language of the colloquial Mandarin version of the "意拾喩言" in the "京華雑拾". Finally, in order to examine the Fryer's movement to standardize the transliteration of foreign proper names, which played a certain role in the establishment of the modern Chinese language, the Syllabary for the Transfer of Foreign Names, is taken up, and an overall introduction is given, as well as the background of the manuscript, an estimation of the date of its completion, and an estimation of its editor. We also attempted to estimate the basic dialects of the transliterated Chinese characters, and further analyzed the characteristics of the transliterated characters.

研究分野：中国語学

キーワード：中国語学 ジョン・フライヤー 蔵書目録 翻訳語 北京語 音訳語 イソップ カリフォルニア大学バークレー校

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

本研究計画は 19 世紀中国語研究において重要性を増しつつある欧文資料を主要な分析対象とし、主にその語彙・語法面について研究を行おうとするものである。

中国語の歴史的研究においては、正統的な文言が重視される時代が長く、口語を反映した資料が少ないことから、本土資料と同等以上に国外の資料が重視される。外交交渉や中国語教育等の目的から当時の口語が記録として残されているというのが大きな要因である。近年は、中国周辺の朝鮮語、満洲語、モンゴル語等の資料に加え、来華西洋人による欧文資料が新たなソースとして注目されている。

本研究計画ではカリフォルニア大学バークレー校 (UCB) 蔵ジョン・フライヤー文庫 (John Fryer Collection、JFC) を分析の核とする。

フライヤー (John Fryer, 漢名傅蘭雅、1839~1928) は英国人であり、約 30 年にわたり中国で活動した。フライヤーは 1861 年に来華した後、上海に創設された国営工場である江南製造局に付設された翻訳処に勤務し、実用科学を中心とする洋書の漢訳に従事した。そこで展開された翻訳活動および翻訳語創造・統一の試みは東アジア漢字文化圏の近代語彙に深い影響を与えている。またフライヤーは『格致彙編』をはじめとする一連の科学啓蒙雑誌を中国で創刊し、中華教育会 (China Educational Association) を創立するなど教育家としても著名であった。

こうした業績から、UCB に中国学・日本学講座が設立される際、初代教授として招かれた。この縁でフライヤーの没後、蔵書は JFC として UCB に保管され、現在では大部分が UCB の東アジア図書館 (East Asian Library、EAL) 一部がバンクcroft 図書館 (Bancroft Library) に蔵せられている。

その旧蔵書には 19 世紀中国語を研究する上で重要性を持つ手稿・刊本が含まれているが、そのリストはまだ公表されていない。このコレクションは言語関連のみならず中国学の諸分野にまたがる文献を含んでいるため、本研究を通じて、中国語学のみならず広く東西交流史や中国文学史にも資料を提供することになるだろう。

本研究は 2014~15 年度に中央大学から与えられた在外研究により UCB にて調査・研究を行ったことに始まる。

当初申請者は UCB の EAL に眠る中国語史関係資料の調査を行う予定であったが、その調査の過程で、東アジア図書館に所蔵される JFC に中国語学の観点から重要な資料が多数蔵せられていることに気づいたのである。

顧みられないまま 100 年近く眠っていた JFC を広く紹介し、実際に資料を語彙・語法面から分析することで JFC の持つ価値を発信したいというのが、本研究の着想に至った背景である。

## 2. 研究の目的

本研究における問いは「未検討の欧文資料群ジョン・フライヤー・コレクションは 19 世紀中国語の研究にどのような貢献ができるのか」ということにある。本研究計画ではこの問いを明らかにするために以下を行うことを目的とする

A. EAL に所蔵される JFC 全蔵書の書誌的な整理を行うこと

B. 中国語史研究に有用な資料を選び出して語彙・語法面から検討を加えること

上記 B に用いる資料の選定に当たっては、(i) これまでに報告・分析のされていない口語テキスト、(ii) フライヤーの訳語統一活動の展開を示す草稿の二点を基準とした。

## 3. 研究の方法

研究期間において上記 2 に挙げた A、B の 2 点を実行すべく、本研究が解明しようとすることは以下の 2 点である：

JFC の全貌を明らかにし、その目録を中国の学術雑誌に公開すること。

JFC 中の重要資料「意拾喩言」および *Syllabary for the transfer of foreign names into Chinese* に見える 19 世紀中国語の音声・語彙を分析すること。

## 4. 研究成果

研究期間とほぼ完全に重なったコロナ禍により、当初予定していた海外での学会発表や、UCB での現地調査などは実行できなかったが、当初の研究計画をおおむね実現することができた。

まず JFC の詳細な蔵書目録を作成した。これにより上記 3 の は達成できたといえる。

具体的には、千葉謙悟 2019 「加州大学伯克利分校蔵傅蘭雅文庫 (John Fryer Collection) 目録 (上)」『或問』36、115144 頁および千葉謙悟 2020 「加州大学伯克利分校蔵傅蘭雅文庫 (John Fryer Collection) 目録 (下)」38、119 - 148 頁として公刊されたものが該当する。

ついで、JFC のうち中国語学の資料として特に重要なものを紹介し、『京華雜拾』所収の北京語口語版「意拾喩言」の言語について詳細な分析を加えた。千葉謙悟「加州大学伯克利分校蔵傅蘭雅文庫蔵《意拾喩言》及其語言特征」『東西言語接触と文化交渉 内田慶市教授古稀記念論

文集』（関西大学出版会）がそれである。

「意拾喩言」は文言で書かれたロバート・トーム『意拾喩言』（1840）を口語に訳したものである。まず「意拾喩言」を太田（1969）による7つの北京語の文法特徴と対比したところ、その内6つを満たすことが明らかになった。次いでそれ以外の特徴を9つ指摘した。すなわち

明確に動態助詞と認定できる場合には「了」のみが用いられ「拉」は用いられない。その他の場合には「了」「拉」が混用される。

連動文に「去+V+去」の形式が見られる。

仮定の接続詞が「要是」と表記される。

介詞として「叫」が常用される。

起点を表す介詞に「從」のほか「接」と「打」がある。

代名詞「自各兒」が多用される。

量詞「個」が多用される。

兒化詞が多用される。

北京語的とされる語彙を多く使用する。

以上から、「意拾喩言」は19世紀北京語を基礎としたものであり、その資料としての価値を持つことが分かった。なお、これまでの成果は中国語で執筆した。中国語学の共通語である中国語によって成果を発信することで、その情報を広く共有できるだろう。

最後に、中国語の近代語の成立に一定の役割を果たしたフライヤーの翻訳語標準化運動を検討するため、申請者が発見した Syllabary for the transfer of foreign names (Syllabary) をとりあげ、全体的な紹介とともに成書の背景、成書年代の推定、編者の推定を行い、音訳漢字の基礎方言の推定を試み、さらに音訳用字の特徴について分析を進めた。

具体的には以下の2本である。すなわち千葉謙悟 2021「カリフォルニア大学バークレー校フライヤー文庫蔵 Syllabary for the transfer of foreign names into Chinese について」『中国文学研究』47、22 - 35 頁と千葉謙悟 2022「フライヤー等編 Syllabary for the transfer of foreign names into Chinese の音訳漢字について」『中国文学研究』48、1 - 14 頁である。

これらでは以下のことが明らかになった。

Syllabary は English-Chinese Technical Vocabularies, etc と題された全 10 種の草稿集の 1 種であり、現在の配列順では第 2 種にあたる。Syllabary は鉛筆で 1 頁を縦 4 列に区切り、各縦列の左側にウェブスター式の発音記号で示された音節、右側に音訳漢字を記していく形式をもった、英語音節と音訳漢字との対照表である。

Syllabary は西洋の事物や概念を表現するために 19 世紀から 20 世紀にかけて行われた翻訳語創造の試みを示すものとして非常に重要といえる。なぜならば翻訳語の一部を成す音訳語を統一的・系統的に生成するための試み、すなわち原語の一つ以上の音節に対し固定した漢字を与えるための近代早期の試みといえるからである。

次いで、Syllabary に見える音訳漢字の特徴について分析した。まず子音面では英語の障害音において有声音と無声音を原則として区別しないこと、英語の歯音摩擦音は歯音破裂音で代用していること、英語の音節末子音は限定的にしか音節表に組み込まれておらず、それ以外の子音については子音単独の音訳漢字で対応すること、l と r は単独では区別するものの母音が後続すると区別を失うことを指摘した。

また母音については、中舌的要素を含む母音に対しては同じく中舌的要素を含む字が音訳漢字となること、二重母音 [oi] にのみ二字の音訳漢字も用意されていること、英語の母音の詳細な区別はなされておらず、その結果音訳漢字の種類がある程度限定されていることが明らかになった。

このような音訳語標準化の試みが現代に直接受け継がれることはなかったものの、その先駆性は正当に評価されるべきであろう。1870~90 年代は来華宣教師を中心とした訳語統一運動が隆盛を迎えた時期である。Syllabary の目指した音訳語の標準化は、こうした近代語彙創造の一環として理解されるべきであろう。注目すべきは来華宣教師による活発な活動である。例えば Doolittle『英下萃林韻府』には本稿で取り上げた Syllabary と同じ趣旨の音訳字表も掲げられている。これは来華宣教師 Ewer によって編纂された、粵語に基づく表であった。音訳語の標準化に向けて音訳字表が複数提案されていたことは興味深い事実である。

以上から、上記 3 の についても当初の目的を実現させた。

よって、本研究計画は当初の予定と目的を問題なく達成したということができる。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 千葉謙悟	4. 巻 47
2. 論文標題 カリフォルニア大学バークレー校フライヤー文庫蔵Syllabary for the transfer of foreign names into Chineseについて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中国文学研究	6. 最初と最後の頁 22-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 千葉謙悟	4. 巻 38
2. 論文標題 加州大学伯克利分校蔵傅蘭雅文庫（John Fryer Collection）目録（下）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 或問	6. 最初と最後の頁 119-148
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 千葉謙悟	4. 巻 36
2. 論文標題 加州大学伯克利分校蔵傅蘭雅文庫（John Fryer Collection）目録（上）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 或問	6. 最初と最後の頁 115-144
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 千葉謙悟
2. 発表標題 チャビン・フライヤー編Syllabary for the transfer of foreign names into Chineseとその音訳漢字の特徴について
3. 学会等名 中国近世語学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 千葉謙悟
2. 発表標題 カリフォルニア大学バークレー校蔵フライヤー文庫蔵「意拾喩言」の言語について
3. 学会等名 中国近世語学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 千葉謙悟
2. 発表標題 カリフォルニア大学バークレー校蔵フライヤー文庫の中国語学関係資料
3. 学会等名 中国近世語学会秋期研究集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 千葉謙悟
2. 発表標題 カリフォルニア大学バークレー校蔵フライヤー文庫の 翻訳語関係資料について
3. 学会等名 漢字文化圏近代語研究会2020年度学術大会（中止）（国際学会）
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 沈国威・奥村佳代子編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 関西大学出版部	5. 総ページ数 539
3. 書名 東西言語接触と文化交渉 内田慶市教授古稀記念論文集	

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------